

2024年度調査研究及び標準化事業報告

企画調査課

business report 2024

1. はじめに

建材試験センターでは、官公庁・自治体や民間企業・団体等からの依頼を受け、政策の普及促進や国内外の標準化活動、技術開発を支援する試験・評価方法の開発等を目的とした調査研究を実施している。調査研究の課題はその時々々の社会ニーズに沿ったものが多く、近年では「省エネルギー」、「地球温暖化対策」、「居住環境の安全・安心」といった課題を中心に、試験・評価方法の開発を進めている。

本稿では、2024年度に実施した調査研究及び標準化事業について、その概要を報告する。

2. リフォーム等における適切なアスベスト処理のための調査/「石綿(アスベスト)含有建材データベース」の維持管理及び運営に関する検討事業

本事業では、建設事業者や解体事業者、住宅や建築の所有者等が、解体や改修及びリフォームの際に、対象となる建材に石綿(アスベスト)が含まれているかどうかを簡単に情報を収集できるようにするため、「石綿(アスベスト)含有建材データベース」(以下、データベースと称する)の運営・管理を実施している。

データベースのURLは、<https://asbestos-database.jp/>である。このデータベースは、国土交通省及び経済産業省の下で構築され、2006年12月から公表されている。

本事業では上記データベースに登録している2,147件の情報の維持管理のほか、適切な情報の提供及びユーザーの利便性の向上を目的とした改善・検討を実施している。なお、本事業は、国土交通省の補助事業として(一社)住宅リフォーム推進協議会が実施しており、当センターは同協議会より受託している。行政・学識者・建設関連団体・建材関係団体・調査診断関係機関から構成される運営委員会を組織して事業を実施した。

今年度の実施項目は、①データベースの維持管理、②データベースの登録情報の追加に関する検討の継続、③データベースの利用に関する調査である。

2025年度以降は、住宅リフォーム業者へwebアンケートを実施して得られたデータを基に、データベースの改良等について検討を実施する予定である。

3. JIS A 1514(建具の結露防止性能試験方法)改正原案作成委員会の実施

JIS A 1514(建具の結露防止性能試験方法)は、建具(サッシ、ドアなど)の結露防止性能を試験するための規格である。建具の結露は、カビの原因となり、室内の仕上げやカーテンなどを汚し、美観を損ねるだけでなく、住む人の健康に悪影響を及ぼす可能性がある。そのため、結露防止性能の評価は非常に重要である。

本規格は1982年に制定され、1993年及び2015年の2回改正された。現行の2015年版までは、同一試験体の試験結果に差異が生じる場合もあることが確認されていた。

この状況を踏まえ、恒温恒湿室内における自然対流の判定方法を確立し、試験結果の再現性を高める必要が生じた。また、結露性状の評価が人の観察結果によっていたため、再現性のある定量的な指標が求められていた。

これらの課題を解決するため、一般社団法人日本サッシ協会が試験条件の設定および測定方法の見直しを行い、結露の定量評価を可能にする改正原案を作成した。その原案を基に建材試験センターでJIS改正原案作成委員会を行った。

今回の主な改正点は以下の通りである。

- ・規格名称の変更
- ・取付パネルの要件の明確化
- ・自然対流環境の試験方法への反映
- ・結露水量の測定方法の追加

このJIS改正原案は、2024年度において概ね取りまとめられ、2025年度は引き続き改正手続きを進める予定である。

author

吉田仁美 経営企画部 企画調査課 主幹

原田七瀬 経営企画部 企画調査課 主査